

「キリストは彼のためにも」

イザヤ書 第45章4節～8節
ローマ人への手紙 第14章13節～23節

説教 岡村 恒牧師

「キリストは彼のためにも、死なれたのである」。 (15節)「神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである」。 (17節)元の言葉では、『彼のために、キリストは死んだ』と簡潔に記しています。この御言葉は、私たちが様々な思い違いや疑い迷いから解放します。

生まれたてのキリスト教会には、食物のことははじめ、様々な考え方の違いがあったようです。日常の習慣でさえ私たちの身についたものはなかなか抜けません。宗教的な習慣はさらに深く、他の生き方など考えることもできないほど、生活の奥深くまで根付いていました。

「あなたの食物によって、兄弟を滅ぼしてはならない」。 (15節)と言わなくてはならないほど、教会の中でさえ古い伝統やしきたり、習慣が力を振るっていました。結局、何が一番大切か、という優先順位が、教会の中で、信仰者の生活の中で問われているのです。

本当に大切なものとは何か？と問われる時、ユダヤ人が最初に律法を受け取った時のことを思い起こします。出エジプト記の記事は、律法をお与えになった主なる神様の言葉を伝えていきます。「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である」。 (出エジプト記 20章2節)ただ神様だけを神として拝み、従って行けば良い、と言われたのに、ユダヤ人はやがて、律法のひと言ひと言を守ること、宗教的習慣を重んじることに捕らわれていきました。律法を守ることが第一とされる時、お互いがさばき合い、傷つけ合うことをご覧になって、主イエスは心を痛めました。「それだから、あなたがたにとって良い事が、そしりの種にならぬようにしなさい」。 (16節)という御言葉は、他人の評価を気にするような話しではなく、本当に良い事とは何か、を問う言葉です。だからこそ、「神の国は飲食ではな」い(17節)と宣言します。聖霊のみがお与え下さる義と平和と喜びこそ、私たちが様々な習慣や思い違いから解放する神の力なのです。私たちが必死で守る習慣や、定め、私たち自身の熱心さが私たちが救うのではありません。ただ神ご自身の力だけが、私たちが救い出すことができるのです。

14章の前半には、結局のところ私たちはいったい何者なのか、ということが明確に語られていました。「すなわち、わたしたちのうち、だれ

ひとり自分のために生きる者はなく、だれひとり自分のために死ぬ者はない。わたしたちは、生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。だから、生きるにしても死ぬにしても、わたしたちは主のものなのである」。 (7節～8節)

13節はこの真実を受けて「それゆえ」と語り始め、私たちのために死んで復活された主の約束を明らかにしています。私たちのために十字架の上で死んで救いの道を開き、その御復活によって私たちが死から命に移し、今も生きて父のみもとで私たちのために場所を用意しておられるお方は、やがて再び来て下さいます。その時、私たちは自分自身だけでなく、あの兄弟、あの姉妹も共に、キリストのものとして神の御前で再会するのです。

私たちは神様によって創造された者です。誰かから強制されなくても、本当の救いを求めるように創られ、招かれています。また、本当の命のパンを知った者は喜んで愛する者に同じ命を得させようとし、命の糧を口移しで分け与えたいと願うのです。本当の自由を与えられた者として、聖霊の力によって、真実の命を明らかに示し、分け与えて生きたいのです。

生きて働いておられる神様の力は、私たちに義と平和と喜びを与えます。キリストはあなたのために死に、よみがえられ、そして再び来て下さいます。私たちは「互いの徳を高める(霊的に成長する)」(19節)ように歩むことができます。神様ご自身が、私たちが養い育てて下さるので、神様に向かって共に建て上げられていくことができるのです。

今月、私たちはふたりの兄弟を神の御許にお送りしました。私たちは召された兄弟姉妹を記憶するだけでなく、『死を覚えよ』という呼びかけを繰り返して聞きます。主イエスがいったい誰のために死んで下さったのか、主の死を覚えるのです。そして、自分自身が神様のものとして行き、神様のものとして死ぬ、そしてやがて主の再臨の日に神様のものとして目覚めることを心に刻みつけます。私たちがご自分のものとして下さった主イエスの約束の言葉が、私たちが主イエスご自身に固く結びつけ、どんな時も希望の内を歩ませて下さるのです。

(岡村 恒)